



いわて・みやぎ・ふくしま 復興便り

No. 10

2019 年
3 月 20 日発行

日本生協連
組合員活動部

9 年目となる 3 月 11 日を迎え、改めて振り返ったり、思いを新たにされた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。日々時の流れに押し流されるように過ごしていても、一時立ち止まり、考えたり、想いを馳せていきたいと思いました。これからも応援していきますし、日本全国で応援し合っていきましょう！



震災8年目 組合員の募金活動やリボンのモニュメント作り

東日本大震災から 8 年目となる 3 月 11 日。いわて生協の内陸地域の 11 店舗では、組合員が復興支援募金活動のよびかけや復興商品の販売に取り組みました。前号で紹介しました、名前やメッセージをリボンに書いて結ぶ「リボンのモニュメント作り」も実施し、復興への願いをリボンに託しました。

また、岩手県内の復興商品の販売団体連絡会にも呼びかけ、3 団体がいわて生協店舗で販売会も実施しました。



店内では、震災発生時刻 14:46 に、来店者にも呼びかけ黙祷を実施し、追悼の意を表しました。店舗がない地区の組合員活動でも、様々な取り組みが行われました。盛南コープでは、震災を忘れないための講演会を 3 月 4 日に開催。大船渡市の「大船渡津波伝承館」の館長を招き、災害への備えの講演会を行いました。参加者からは「改めて自宅の防災について見直します」、「震災から 8 年経ち、忘れていたことも多く、今日学んだことを周りの人にも伝えなくては」などの感想が寄せられました。



「3.11 を忘れない取り組み」を実施しました。

毎年2月～3月にかけて、「3.11を忘れない取り組み」を、宮城県内各地のこ～ぴ委員会（47会場 60エリア）でそれぞれ工夫をこらし、実施しています。災害への備えとして「ローリングストック（循環備蓄）」の紹介・普及に取り組んだエリアが多くあったほか、震災語り部や行政の出前講座など外部講師を依頼した学習会で、改めて当時の様子や防災について学んだエリアもありました。

防災・減災などについて見直したり、震災を伝え、支援を考える機会として継続して取り組んでいます。



仙台市青葉区の BRANCH 仙台店では、ローリングストックの紹介をしました。



名取市の名取西店での取り組みの様子



仙台市太白区の西多賀店では、元ラジオ福島アナウンサーの大和田新氏を招いて、福島の実状と課題のお話を伺いました。



仙台防災未来フォーラム 2019 で、ローリングストックを紹介しました。

3月10日、仙台国際センターで開催された「仙台防災未来フォーラム 2019」へブース出展。乾燥ごぼうサラダの試食を提供しながら、ふだんの暮らしの中で備えるローリングストックの取り組み方を紹介し、約720人がみやぎ生協ブースに立ち寄られました。



小さいお子さんを連れた若いご夫婦の参加も多く、「乾燥ごぼうを初めて知った。お店で探してみたい」との声が多数寄せられたほか、「災害時の野菜不足は震災で痛感している。乾燥野菜を普段から使っておきたい」「フリーズドライスープは愛用しているが、ストック品とは意識していなかった。今後は意識したい」などの声もいただきました。



共立社寒河江生協のみなさんと交流しました。

2月21日、共立社寒河江生協のみなさん7人が来訪され、亘理（わたり）町・西木倉公営住宅ふれあい喫茶で、芋煮をつくって交流しました。

公営住宅にお住まいの方からは、「私たちのために材料やなべを持参でいらしていただき、温かい気持ちを感じました」、「震災から8年になるのに未だに忘れないで来てくれて、心から感謝」、「いつも支援してもらっているばかりなので、次回は亘理のはらこ飯などをつくって交流できたらと思う」などの声が寄せられました。



「福島を知る」学習会に参加してきました！

この学習会は、昨年11月28日にコープふくしまで開催した甲状腺検査についてのシンポジウムに、福島県内外からご参加いただいたことから、開催に繋がりました。

3月1日～2日にかけて、エフコープとコープさがで「福島を知る」～福島県民健康調査に関する学習会～が行われ、福島県立医科大学（放射線健康管理学）の緑川早苗准教授と、コープふくしまの宮澤恵美子組合員理事が参加しました。緑川さんからは「甲状腺に関する基礎知識と福島の甲状腺検査」について、これまで福島県内で30万人以上が受けた検査結果とそこからわかったことなどを講義いただきました。その後、福島県浜通り地方に住んでいる宮澤理事より、震災後の自身の家族や、まわりの組合員やママ友の甲状腺検査に関する意見など、生活者の声として具体的にお話しました。

ご参加いただいた方々からは、「いろんな情報に惑わされてしまうことも多いですが、学習してきちんと情報を得て、正しく理解することが大切ですね」、「知らずに怖がるのは、豊かに暮らす上でマイナスですね」などといった感想が寄せられました。宮澤理事は、みなさん真剣に学習会を聞かれ、報告の内容に関して多くの質問がありました。また、「今回学習したことをまわりの人たちに伝えます。」、「現地に足を運ぶことは難しいけど、福島のものを買って・食べて応援します」など、

皆さんから温かいお心をいただき、「理解が深まる良い学習会となりました」と宮澤理事からの報告がありました。

(エフコープさんより
写真提供)



「支援金贈呈式」を行いました。(生協くまもとさんより)

2月20日～21日に生協くまもとから2名の方が来福され、コープふくしまへ支援金を寄付する贈呈式を行いました。贈呈式後には、被災地を視察されました。この支援金は2014年にコープふくしまへの支援として、組合員さんに呼びかけ募っていましたが、2016年に熊本地震が起き、そのままおかれていた支援金ということです。今回、組合員の意思もあり、贈呈いただきました。熊本では未だに2万人の方が仮設住宅で生活されています。そのような大変な状況の中での支援に、大変感謝しています。

翌日は、復興公営住宅の県営北沢又団地大和和田集会所（福島市）を訪問され、サロン活動に参加し、くまもとの銘菓をいただきながら交流いたしました。自治会長から震災前の写真を見せて頂きながら説明を受け、前日視察された被災地の変わった様子に心を痛めておられました。住宅の皆様からは、「熊本も大変な時に、福島にもいろいろと支援してもらいたい。」と、感謝のお言葉がありました。





週末保養開催！！外遊びといちご狩り♪小学生の親子企画 福島の子ども保養プロジェクトのご報告

開催日：2019年3月2日（土）～3月3日（日）

保養先：山形県天童温泉いちらく

参加者：13 家族（大人 17 名、子供 16 名）、スタッフ 3 名

天候：両日とも晴れ

1.一日目 外遊び

雪不足のため、雪遊びの予定を変更し、屋外のワクワクランドにて外遊び



となりました。「前日、全員への電話連絡があったので余計な荷物がなくすみませんでした」との声もいただき、外遊びはすんなりと、家族で楽しくボール遊びやバドミントン、缶ぽっくり等で遊ぶ事ができました。

夕食の恒例の「あいさつ」は、お菓子のプレゼントが 4 個のため、じゃんけん大会で勝ち残った 4 名にお願いしました。家族紹介も全員積極的に、楽しく紹介できました。



2.二日目 いちご狩り



予定通り 10 時に出発し、寒河江のいちご狩りに向かいました。いちご園では「やよいひめ」と「とちおとめ」のいちごを食べ比べました。既にハウス内のいちごはほとんど無くなっていて、コヨット用に 2 か所を残していただいていたそうです（感謝！）。少し小さめでしたが、たくさんいただいて、いちご狩りを楽しみました。

JA さがえ西山アグリランドで昼食＆お買い物の後、12：30 に出発。帰りのバスの中では DVD「リメンバーミー」を見ながら静かに過ごしました。少し早めに到着し、おかげさまで何事もなく解散しました。

3. 参加者からのアンケートや感じた事

- なかなか親子で外遊びする事がなかったので、今回沢山の子供の笑顔が見れて良かった。
- 思いっきり外で遊ばせることができ、美味しい夕食と温泉でリフレッシュできました。
- 二人で一緒に過ごすのは久しぶりで楽しかったです。小学校最後の思い出ができました。
- 初めて参加させていただき、充実した 2 日間を過ごせました。ありがとうございました。





こども保養PJ (コヨット!) 茨城ときどき日帰りツアー (那珂湊・大洗水族館)



開催日：2019年3月9日(土)

行き先：茨城県常陸太田～大洗

参加者：7家族(子ども13名、大人9名、内スタッフ：3名)

天候：晴れ

1. JA常陸長砂直売所

今冬の茨城は例年より暖かかったことや最盛期を過ぎた時期でもあり、干し芋コーナーは2月に訪問した時よりも少し少なく感じましたが、福島県民も干し芋が好きなんですねと店長様から言われるほど購入していました(笑)

JA様より、各家族にお茶のどら焼き・エコバック・お茶をいただきました。

2. 那珂湊ヤマサ水産「昼食とお買物」

那珂湊では海の幸の海鮮弁当を出していただき、豪華さに参加者から歓声の声が上がりました。子ども達は夢中になって食べていました。お母さん達は新鮮な魚を真剣に選び、購入されていました。福島の魚はまだ試験操業中なので、那珂湊で安くて安心な魚を求めていると思いました。



3. アクアワールド大洗「見学」



茨城県生協連 佐藤会長

那珂湊から昼食を終えて、アクアワールドへ。水族館入り口では、大洗水族館の小澤館長様がお出迎えしてくださり、大洗水族館のシンボルマークでもあるサメの飼育に力を入れていることや(55種類で日本一!)、日本で最初にペンギンショーを行った水族館としても知られていると、お話いただきました。



小澤館長様より、参加した子ども達に水族館のオリジナル非売品のグッズをいただき、子ども達は大喜びでした。

3. 参加者からのアンケートや感じた事



○会長から、福島の子ども保養はもう大丈夫だと言われるまで続けていくと力強いお言葉をもらい、元気になりました。

○同じ原発のある地域です。再稼働は絶対反対です。福島からも応援します。

○初めて参加しました。いばらきコープさんのご支援に感謝いたします。子どもの笑顔が見られて本当に良かったです。

発行

日本生協連 組織推進本部 組合員活動部
電話 03-5778-8124 Fax 03-5778-8125

担当

上田、百瀬、末永